

# 鳥取県の地震

2025年（令和7年）10月  
鳥取地方気象台

## 目 次

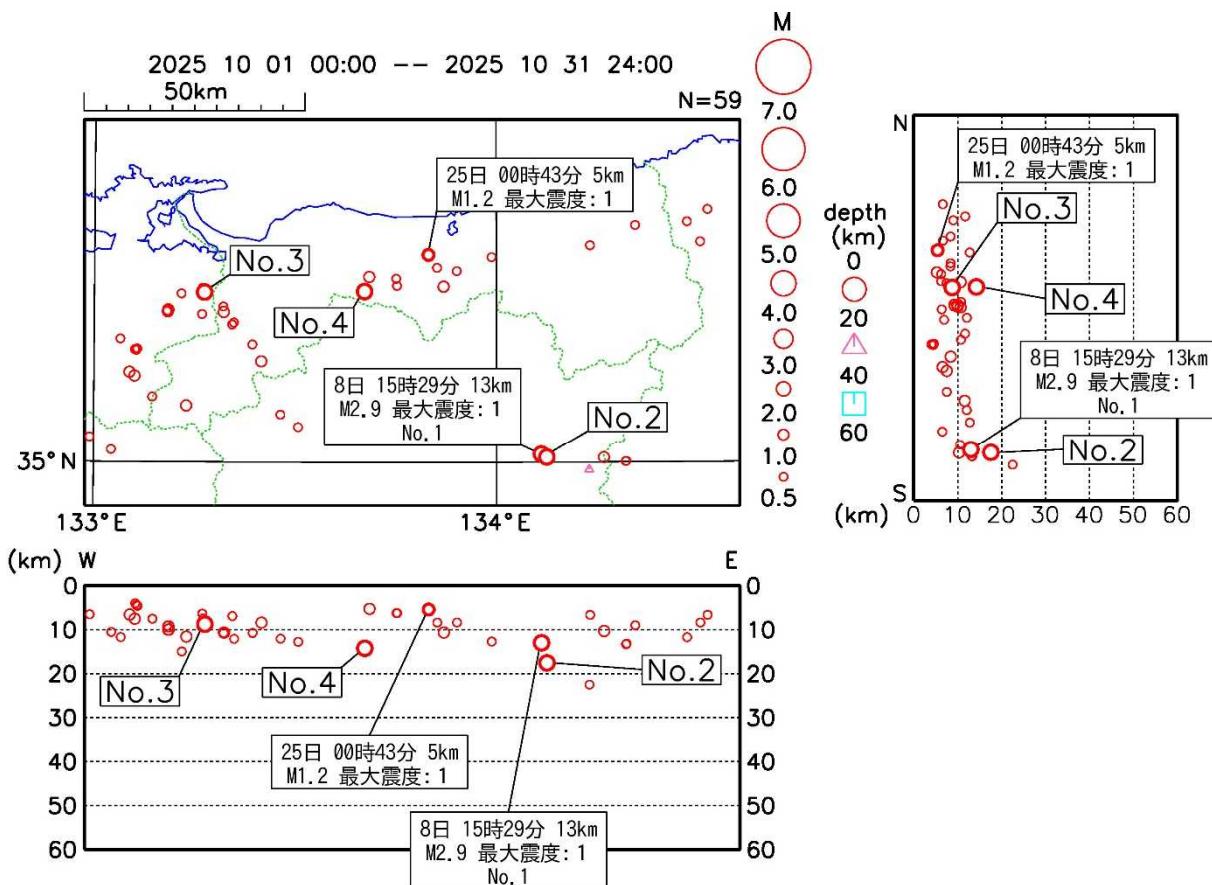
(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0 以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	2
(3) 地震・津波の知識	
南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について	3

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがあります。

\* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。  
大阪管内地震活動図URL [https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos\\_monthly.html](https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos_monthly.html)

## (1) 鳥取県とその周辺の地震活動

### [震央分布図・断面図]



### [概況]

2025年10月に鳥取県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回（前月0回）でした。

25日00時43分 鳥取県中部の地震（深さ5km、M1.2）により、鳥取県倉吉市で震度1を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0以上の地震は4回（前月は3回）でした（番号は震源リストに対応）。

なお、8日15時29分に発生した地震（上図のNo.1）は岡山県でのみ震度が観測されています。

### [震源リスト(震央分布図内のM2.0以上の震源リスト)]

No.	発震時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニチュード	最大震度
1	2025年10月08日15時29分	岡山県北部	35° 1.0' N	134° 6.6' E	13	2.9	1
2	2025年10月12日19時13分	岡山県北部	35° 0.6' N	134° 7.4' E	18	2.5	-
3	2025年10月25日06時44分	島根県東部	35° 20.9' N	133° 16.4' E	9	2.1	-
4	2025年10月25日15時51分	鳥取県中部	35° 21.0' N	134° 40.3' E	14	2.3	-

## (2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震

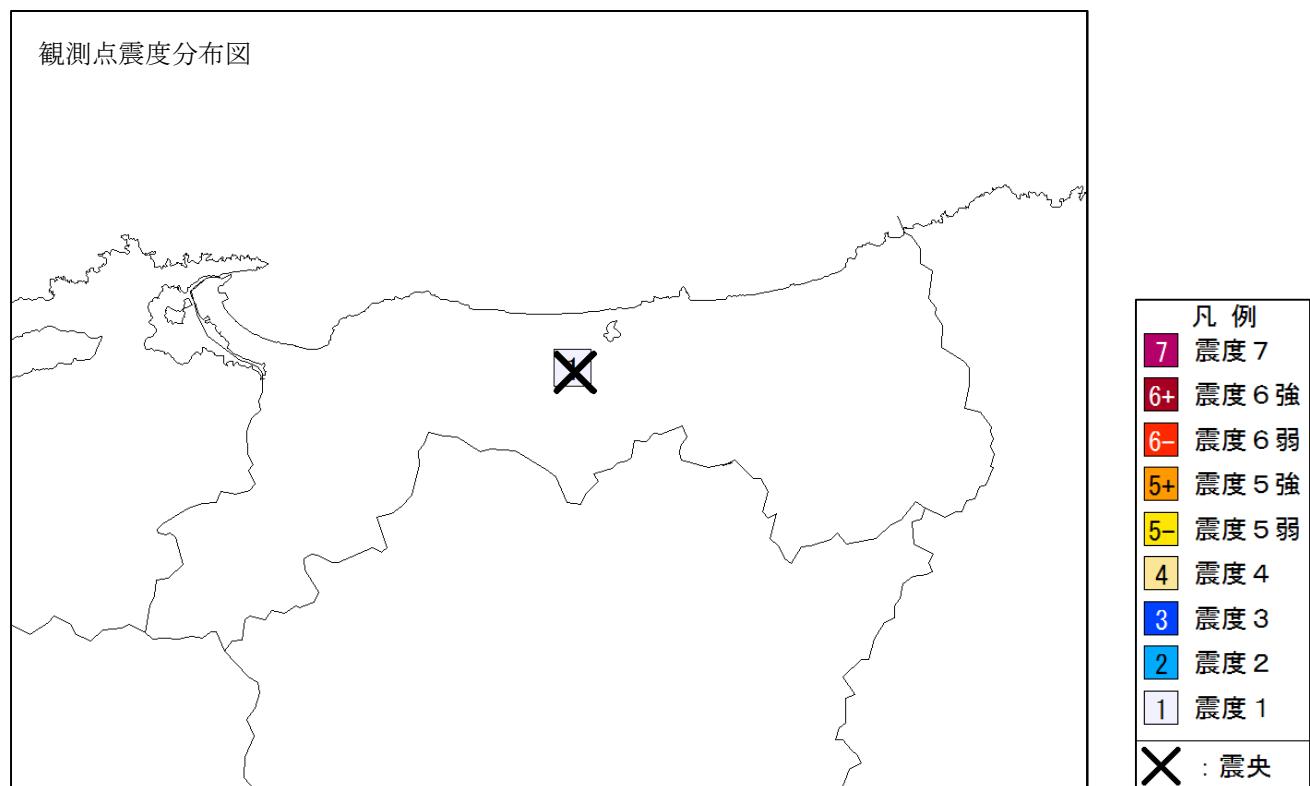
### [鳥取県内で震度1以上を観測した地震及び震度のリスト]

発震時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2025年10月25日00時43分	鳥取県中部	35° 25.4' N	133° 49.8' E	5km	M1.2
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 倉吉市葵町*					

・\*印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### [鳥取県内で震度1以上を観測した地震の震度分布図(図中×は震央)]

2025年10月25日00時43分 鳥取県中部



### (3) 地震・津波の知識

#### 南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、これまでに、海のプレートと陸のプレートの境界に位置する海溝沿いで発生する地震（海溝型地震）について、長期評価を行い公表してきました。「南海トラフの地震活動の長期評価」の第一版は2001年（平成13年）に、第二版は2013年（平成25年）に公表されています。

第二版の公表以降、全面的に改訂するような新たな調査研究の成果はないものの、一部で新たな知見が得られたことを踏まえ、地震発生確率の計算方法を見直し、9月26日に長期評価を一部改訂し公表しました。地震発生確率の見直し結果は下表のとおりです。新たな地震発生確率は、これまで計算に用いていた時間予測モデルではなく、ひずみの蓄積にばらつきがあることも考慮した2つのモデル（すべり量依存BPTモデルとBPTモデル）を用い、それぞれのモデルで計算された値を併記することになりました。

マグニチュード8～9の地震	計算に用いたモデル	用いたデータ	ランク（※） (2025/1/1時点の今後30年以内の発生確率)
第二版	時間予測モデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	IIIランク (80%度)
第二版 一部改訂	すべり量依存 BPTモデル	・隆起量データ ・地震発生履歴	IIIランク (60%～90%程度以上)
	BPTモデル	・地震発生履歴	IIIランク (20%～50%)

（※）ランクとは、地震の発生確率を大まかに分けた区分です。南海トラフ地震のような海溝型地震では、発生確率が高い順にIIIランク「今後30年以内の地震発生確率が26%以上」、IIランク「3～26%未満」、Iランク「3%未満」の3段階と、Xランク「地震発生確率不明（すぐに地震が起こることを否定できない）」に分類されています。また、IIIランクは「高い」、IIランクは「やや高い」と表現されることもあります。

今回、地震発生確率が改訂されましたが、最新の科学的知見を取り入れた今回の評価においても、南海トラフでの地震発生確率は、従来と同じく、最も高いランクに位置づけられることが確認されました。また、前回の南海トラフ地震（昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年））から約80年が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高い状態であることに変わりはありません。引き続き、地震に対する防災対策や日頃からの備えを行うことが重要です。

今回の改訂の詳細については、地震調査研究推進本部ホームページ「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）について」（以下リンク）を参照願います。

[https://www.jishin.go.jp/evaluation/long\\_term\\_evaluation/subduction\\_fault/#nankai\\_t](https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t)

（参考リンク）

「災害時に命を守る一人ひとりの防災対策」（政府広報オンライン）

<https://www.gov-online.go.jp/article/201108/entry-8072.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和7年10月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857-29-1313